

「人情噺 文七元結」



2008（平成20）年11月3日鑑賞〈梅田ピカデリー〉

監督・補綴：山田洋次

左官長兵衛／中村勘三郎

角海老女房お駒／中村芝翫

長兵衛の女房お兼／中村扇雀

和泉屋手代文七／中村勘太郎

長兵衛の娘お久／中村芝のぶ

鷹頭伊兵衛／片岡亀蔵

小間物屋・和泉屋清兵衛／坂東彌十郎

2008年・映画・87分

配給／松竹

〈はじめてシネマ歌舞伎を！〉

私は08年5～7月はゲキ×シネ5作品の魅力にハマったが、シネマ歌舞伎を観たのは今回がはじめて。2003年春から開発に着手されたシネマ歌舞伎は『人情噺 文七元結』で既に7作品目だが、今回はじめてこれを観て、これまで食わず嫌いだったようだと思ふ。そりゃドラマとしては波瀾万丈の物語が展開されド派手な舞台回しが続くゲキ×シネの方が断然面白いが、シネマ歌舞伎にはシネマ歌舞伎の良さが。

しかも今回はじめて観た中村勘三郎演じる左官職人長兵衛のキャラはいかにも魅力的。また舞台上のセットは①本所割下水長兵衛内の場、②吉原角海老内証の場、③本所大川端の場の3つだけでとにかくシンプル。またそこで展開されるのはセリフ劇だけだが、それだけでも結構胸に迫ってくるものが……。こりゃゲキ×シネだけでなく、これからはシネマ歌舞伎にも注目しなければ……。

〈なるほど、よくできた人情噺〉

これも今回はじめて知ったことだが、『人情噺 文七元結』は明治35（1902）年に歌舞伎座で五世尾上菊五郎が初演した、笑いあり涙ありの人情劇とのこと。そんな由緒ある作品を山田洋次が補綴（歌舞伎の台本を改訂）監督するという形で、今回のシネマ歌舞伎が完成したのは山田洋次と、中村勘三郎との話し合いがトントン拍子に進んだためらしい。そこらあたりの事情はパンフレットを読めば詳しく書かれているので、是非勉強してもらいたい。

『人情噺 文七元結』は酒とバクチにうつつを抜かず左官職人長兵衛が、両親を思い身売りしようとした娘お久（中村芝のぶ）の身を担保に角海老の女房お駒（中村芝翫）から50両という大金を借り受けしながら、偶然出会った見知らぬ男文七（中村勘太郎）が大川に身投げしようとしている姿を見て、その50両をくれてやるというのが基本ストーリー。なぜ、そんなバカなことを、と誰もが思うのは当然で、八ナから長兵衛の話を信用しない女房のお兼（中村扇雀）が長兵衛を激しく責めたのは当然。そこに現れたのが、文七とその主人である和泉屋清兵衛（坂東彌十郎）。彼の話によると、文七がスリに取られたと思っていた50両は実は置き忘れていただけで、無事清兵衛の元に届けられたとのことだ。これによって長兵衛のバカげた話がホントだったことが判明し、その後は涙と笑いの物語のすべてがめでたし、めでたしのハッピーエンドに。まあこんなストーリーだが、全然古臭くなく、なるほどよくできた人情噺。

〈こんな変わり者も貴重だが……〉

自分が生きることに精一杯で、他人のことなどかまっているヒマはない。自分さえ良ければ、まわりの奴がどうなろうとも知ったことじゃない。この物語が初演された明治35年から106年を経た今、残念ながら日本国にはそんな風潮が蔓延している。そんな今の日本国に、長兵衛のような行動をとる40男がいる？

フーテンの寅さんが死亡してしまった今、長兵衛のような天下の大バカ者はまずいないのでは……？しかし、それって少し寂しすぎない？だって、もし文七が大川端で長兵衛と出会わなければ、そして長兵衛が貴重な50両を文七にくれてやらなければ、文七は大川に身を投げて死んでいたはず。さらに、文七とお久の結婚というひょうたんからコマのようなめでたい話も実現しなかったはず。そう考えると、やはり長兵衛のようなケツタイな男の存在は貴重だから、こういう変わりモノを認める世の中にしなければ……。

〈第3、第4のコラボを期待〉

中村勘三郎と山田洋次監督のコラボは『人情噺 文七元結』と同時に撮影された『連獅子』が第2弾となり、これは08年12月27日に全国公開予定とのこと。もちろんそれも期待できるが、私はどちらかというと歌舞伎については踊りよりもストーリーの方に興味がある。また私は歌舞伎についてほとんど知識をもっていないが、今回『人情噺 文七元結』のパンフを読んで勉強した限りでは、中村勘三郎による山田洋次監督への口説き方とプロデュース能力は超一流のようだ。

今回山田洋次監督が『人情噺 文七元結』を補綴するについては長兵衛というキャラを多少いじったらしいが、それはホンの一部だけ。パンフに載っている2人の対談を読んでいると、フーテンの寅さんのストーリーがどんどん広がっていくのと同じように、長兵衛のストーリーはいくらでも広げていくことが可能なはず。

フーテンの寅さん亡き今、山田洋次監督にはそれに変わる偉大なバカ、そして「破滅型善人」長兵衛のキャラを活かして次々と面白い脚本を書き、第3、第4のコラボを実現してもらいたいものだ。